令和７年度平塚市在宅医療・介護連携推進事業の通年取組結果　（（1）（4）（5）（7）は平塚市在宅医療介護連携支援センターに委託）

資料1

検討項目			令和７年度取組	前年度3月	4場面の取組 日	入	急	看	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	チェック内容	来年度に向けて
①現状分析・課題抽出・施策立案	（1）地域の医療・介護の資源の把握	地域の医療機関、介護事業所等の住所、連絡先、機能等を把握し、その情報と合わせて、リストやマップを作成、活用する	○平塚市の医療・介護の資源のリスト又はマップの作成と活用		○				わくわくマップと国のシステムの案内を併用（平塚市ホームページ）												わくわくマップから、医療と介護の情報を国のシステムに切り替える途上。	市ホームページに国システムのリンク先を掲載
			○市内介護事業所における「ひらつか介護サービス（医療対応）一覧」を更新する。		○								ひらつか介護サービス（医療対応）一覧の更新、検索ツール								データの入れ替えを２月までに行う。	作業効率を図るためのツールを検討する。
			○「介護タクシー・福祉有償運送情報一覧」を更新する。		○				介護タクシー・福祉有償運送情報一覧の更新												複数回お尋ねしているが、一覧への掲載を希望しない事業者が増え、当初の半数ほどの紹介にとどまっている。	当初の目的、病院の退院支援室やケアマネへの周知は実現しており、HPでの趣旨案内のみとする。
			○ケアマネが使用する連絡票、入院時退院時情報提供取扱窓口の更新			○			連絡票・入院時退院時情報提供票窓口の更新												５月中に更新した。１３病院分	同じ形で継続する。
			○連携支援センターホームページの充実（研修の情報発信、ブログ、Facebookの更新）		○				平塚市在宅医療・介護連携支援センターホームページの充実												ウェブの他、ブログやfacebookの更新も実施した。	
			○訪問看護Ｎａｖｉの作成		○				関係者との打合せ・作成						ケアマネや病院相談室等への働きかけ、フロー化						２か月に１回の訪看連絡会の後に今後の展開について打ち合わせをしてきた	精神訪問看護のことを含め、訪看の存在を知らせる。
	（2）在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討	地域の医療・介護関係者等が参画する会議を開催し、在宅医療・介護連携の現状の把握と課題の抽出、対応策等の検討を行う	○平塚市在宅医療介護連携推進協議会の意見聴取と協議　３回　また、市の認知症施策等についての検討を行う。									第1回				第2回				第3回		
			○在宅医療・介護連携に係る課題抽出や対応策の検討を行う。（定例会　１回/２月）						隔月第3(木)定例会での課題抽出						毎月第3(木)定例会での課題抽出						検討する議題の量が多かったため、10月から毎月に戻した。	議題がなければ休みの形で進める。
	（3）切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進	地域の医療・介護関係者の協力を得ながら、切れ目なく在宅医療と在宅介護が一体的に提供される体制の構築に向けて、必要な具体的取組を企画・立案する	○終末期における意思決定支援方法のひとつとして「ひらつか在宅介護生活サポートガイド」の活用を支援する。					○	ひらつか在宅介護生活サポートガイドの普及啓発												看取りに関する在宅医療、介護の多職種連携研修を２回行い、ガイドの重要性を強調した。	市民に対するガイドの紹介について検討する。
			○高齢者施設での看取りについての普及啓発を実施する。病院、救急の立場から、高齢者施設の急変時看取り時の対応の改善を依頼する。					○	施設看取りの普及啓発。急変時、看取り時の対応改善の依頼。												急変時対応や施設看取りに関して、各機関の立場をまとめ、高齢者施設に対して進言する準備	高齢福祉施設協議会を通じた課題解決と協議会報告をする
			○障がい者も含めた「在宅医療に必要な連携を担う拠点」の構築についての国の指針について、実現の可能性を検討する。						在宅医療に必要な連携を担う拠点について検討する												今年は積極的には動けなかった。	当市としての考え方を決定してから検討を開始する。
			○medical B.I.G net等ICTツールを用いた医療と介護の情報連携について検討する。			○			ICTツールによる医療・介護情報の連携について検討する												看護小規模多機能型居宅介護の事業所に参加を呼びかけ、１法人が加入。	BIGnetから希望されている、特養へのアプローチの実現を検討する。
②対応策の実施	（4）在宅医療・介護連携に関する相談支援	地域の在宅医療・介護連携を支援する相談窓口の運営を行い、地域の医療・介護関係者、地域包括支援センター等からの、在宅医療・介護連携に関する事項の相談の対応を行う	○在宅医療・介護の連携を支援する相談窓口の運営 ・医療・介護関係機関に相談の調整及び連携を行う。		○				平塚市在宅医療介護連携支援センターでの相談実施												単なる社会資源の情報提供だけでなく、特定の職員へのつなぎを求められている。	引き続き相談業務を続ける。
			○参考となる相談、解決策を平塚市在宅医療介護連携支援センターのホームページ上に掲載する。		○				相談・解決策をホームページに掲載												実施している。	継続していく。
			○各研修会や管理者連絡会などで相談事例の情報共有を行う。		○				連絡会		連絡会		連絡会		連絡会		連絡会		連絡会			
	（5）地域住民への普及啓発	在宅医療・介護に関する講演会の開催、パンフレットの作成・配布等により、地域住民の在宅医療・介護連携の理解を促進する	○地域住民への普及啓発事業として講演会を実施 ・包括支援センター及び市内団体機関等と普及事業を実施。 ・体験型終活（もしバナ）　9/30　1/20 ・人生会議(ACP)について　2/27 ・在宅医療と救急の使い方講座　11/15　11/27				○	○						体験型終活31		在宅医療と救急@金目42 済生会29		体験型終活12	ACP 共済病院		東西の公民館（東はなでしこホール）で在宅医療と救急の使い方講座を実施した。もしバナ講座は参加者数が減少傾向。	医療と救急講座で、公民館での開催希望は多く、繰り返し行うか、図書館で実施してみるか今後検討。
			○YouTubeチャンネル「介護サービスのあれこれinひらつか」に医療サービス（薬剤師編）の動画作成及び配信		○				動画の作成及び配信												薬剤師編について完成した。	歯科医師会について動画作成及び配信予定。
			○介護予防教室等地域からの依頼で講義を行う。（随時）											随時								
	（6）医療・介護関係者の情報共有の支援	情報共有の手順等を含めた情報共有ツールを整備するなど、地域の医療・介護関係者間の情報共有を支援する	○情報共有ツールとして「ひらつか安心ファイル」、「ひらつかあんしんカード」の活用を支援する。		○		○		情報共有ツール（ひらつか安心ファイル・ひらつかあんしんカード）												サポートガイドの研修や多職種研修、市民啓発研修で紹介した。	研修の都度周知する
			○ひらつか在宅介護生活サポートガイドの共有を図る。					○	サポートガイドの在宅医療・介護の現場への展開の支援												サポートガイドを増刷し、窓口で配付できる体制を整えた。	引き続き、活用に向けた支援を検討していく。
			○medical B.I.G.netを用いた医療と介護の情報連携について協力する。			○			medical B.I.G.net運営会議への参加													
	（7）医療・介護関係者の研修	地域の医療・介護関係者の連携を実現するために、多職種でのグループワーク等の研修を行う。必要に応じ、地域の医療関係者に介護に関する研修会の開催、介護関係者に医療に関する研修会の開催等の研修を行う	①　多職種の連携研修　１回　1/15 ②　グリーフケア研修　１回　7/15 ③　施設職員に対する看取り研修　２回　9/12　9/19 ④　サポートガイド研修（多職種）２回　1/23　2/26 ⑤　薬剤師との情報交換会　１回　10/31 ⑥　感染症対策施設向け研修（多職種）３回　6/13 7/18 8/8 ⑦　皮膚トラブル（褥瘡予防）セミナー　１回　11/19 ⑧　ＢＣＰ基礎講座　１回　7/3		○		○	○			感染症（通所系）12	グリーフケア25 感染症（訪問系）26 BCP online55 会場25	感染症（入所系）17	施設みとり 12 施設みとり 5	皮膚トラブル52 ポリファーマシ36			多職種施設みとり 久保田 Dr65 サポートガイド36	サポートガイド（2/26予		参加者が固定している感がある。グリーフケアはケアマネがとても多く参加した。感染症は防護服等の着脱の実技もあり高評価だった。施設看取りは参加人数がとても少なかった。	システム会議や三師会の周知のみに頼らず、講習参加者名簿によるプッシュ型通知を考える。日中の１時間程度オンライン講習や、動画を撮ってアーカイブ配信等企画予定。グリーフケア、感染症、施設看取りは継続したい。施設看取りはマニュアル案の検討と学習の継続を促したい。
４場面毎の取組の数					11	3	3	5														
評価・改善③対応策の	事業全体の目的を明確化しつつ、ＰＤＣＡサイクルに沿った取組を実現する		チェック 計画策定		協議会による評価										チェック	協議会による中間評価						

＊４場面の取組…日→日常の療養支援、入→入退院支援、急→急変時の対応、看→看取り